

子どもたちのための里親制度。

誰かがそばにいるって大切。



子どもと里親の暮らしを知るサイト

Tokyo 里親ナビ

里親ナビ



<https://tokyo-satooyanavi.com/>



東京都内の養育家庭(里親)・養子縁組に関する情報を発信しています。

[イベントの情報は各種 SNS でも確認できます]

LINE



Instagram



Facebook



[東京都里親支援機関]

一般社団法人東京公認心理師協会 里親サポートとこりん / NPO法人 キーアセット / 社会福祉法人二葉保育園二葉乳児院 二葉・子どもと里親サポートステーション



Tokyo里親ナビでは「里親」を選んだ人たちの 家族Storyを紹介しています。

「一歩ずつ、K君との関係を築いてきた」

Q 里親になったきっかけを教えてくださいませんか？

里母さん：私には子どもがいなかったのですが、いつだったか子育てをしてみたいねという話になったんですね。もともと2人とも「血縁」へのこだわりがそれほど強くはなかったので、手始めに民間の特別養子縁組団体の話を聞きに行ってみました。でも自分たちには違うかなという感覚を抱き、児童相談所に行って養育里親について教えていただきました。私たちは近くに両親が住んでいないので子育てをする際の支え手がないのですが、養育里親なら様々な社会資源が使えるというので、自分たちのライフスタイルに合っているように思い、すぐ登録しました。



里親さんインタビューより < 里親 Story#08 >

インタビュー全文は
こちらから
ご覧になれます ▶



「我が家に迎えて、楽しく生活してもらえたらいいな」

Q 里親になったきっかけを教えてくださいませんか？

里母さん：夫婦2人で共働きを続けてきたのですが、50歳のとき、締め切りに追われる生活から抜け出さなくなって、仕事を辞めました。でも何もしないのももったいないと思ったので、近所の児童養護施設でボランティアを始めました。子どもたちと触れ合っているうちに、集団生活ではなく、里親家庭で育てほしいという思いが強くなりました。週末などに児童養護施設の子どもを預かるフレンドホームという制度を使って、毎週末に施設の子どもを迎えるようになったのですが、そのうちに主人と「長期で子どもを育てたいね」ということになり、養育家庭に登録しました。



里親さんインタビューより < 里親 Story#09 >

インタビュー全文は
こちらから
ご覧になれます ▶



「僕らがふさわしいかは分からないけど」

Q 東京都の新生児里親に登録したきっかけは、どんなことからだったのでしょうか？

妻(ママ)：結婚が遅くて不妊治療をしていましたが、うまくいかなかったんです。治療をやめようということになって、でもその後何をしようかとなったときに、社会貢献やボランティアをするのもいいなと思っていました。夫婦でいろいろ話し合っていたとき、夫が「こういうのもあるよ」と、特別養子縁組で子どもを迎えた漫画家さんの体験記エッセイを持ってきたんです。

夫(パパ)：たまたまラジオ番組で紹介されていたんですが、読んでみて「養子縁組や里親という選択肢もありだな」と思ったんです。共働きで一応子どもを育てられる程度環境があったのと、親を必要としている子どももいるのであれば、僕らがふさわしいかは分からないけど登録してみるのもいいかなあとと思って。



養子縁組さんインタビューより < 養子縁組 Story#03 >

インタビュー全文は
こちらから
ご覧になれます ▶

